

<「知るっば!久留米」 令和2年7月23日(木) 12:30~放送分>

筑後川の生き物 ～第4回～ ブルーギル

<ゲスト：筑後川防災施設くるめウス 川嶋 睦己さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

7月は久留米のシンボルである筑後川について知ろうということで、『筑後川の生き物』をテーマにお送りしていきます。

今回のゲストは、この方です。

ゲスト:川嶋睦己さん (以下「川嶋」)

筑後川防災施設くるめウスの川嶋睦己と申します。

よろしくお願いします。

坂本 筑後川の生き物シリーズの第4回です。

今日は『ブルーギル』ということなんですが、ブルーギルというのは外来種ですよね?

川嶋 そうなんです。これまでは、筑後川の貴重な在来種のお話をさせていただきましたが、今回は切り口を変えて外国からやってきたお魚のお話をさせていただきたいと思います。

坂本 今日はちょっと大事なお話のような気がしますが、その外来種のブルーギルというのはどんなお魚なんでしょうか?

川嶋 元々は、北アメリカ原産の淡水魚です。

ブルーギルという名前なんですが、ブルーは青、ギルはエラという意味があるそうです。

名前のおとおり、エラブタに青い円形の模様があります。

そして、体は全体的に緑がかかった褐色をしていて、その濃淡でヨコジマ模様が入っています。

坂本 なるほど、ギルはエラの事だったんですね。知りませんでした。

昔、大アマゾンの半魚人ギルマンという映画があったんですね。

半魚人で人間の形したモンスターなんですけど、ギルがエラでマンが人間だからエラ男みたいなことだったんですね。

ちょっと思い出してしまいましたが、こんな話をすると日が暮れてしまうので話を戻します。

前回のオヤニラミもヨコジマでしたよね?

川嶋 そうですね。お魚にあまり興味がない方からしたら、オヤニラミとブルーギルは同じような魚に見えるかもしれませんが、よく見ると全然違うんです。

どういった魚かという、久留米市環境部さんが、市ホームページに『守ろうくめの生きもの』という冊子を電子データで公開されています。

その中にオヤニラミもブルーギルも写真付きで掲載されているので、そちらを検索していただいて見比べていただけたらと思います。

話を戻しまして、ブルーギルは1960年代に養殖魚の候補として日本にやってきました。

試験的に湖などに放流された結果、色々な経緯を経て全国各地に広がってしまったんですね。

坂本 1960年代というと、ちょうど最初の東京オリンピックがあった頃ということで、ちょっと時代が思い出されるなあという感じです。

川嶋 当時は貴重なタンパク源と考えられたんですね。

坂本 そのブルーギルなんですが、生態系に対して具体的にはどんな影響があるんでしょうか？

川嶋 ブルーギルは、雑食性で何でも食べちゃうんですね。

小さな魚から昆虫、植物、貝類など色々食べますし、食欲も旺盛です。

なかでも魚の卵が大好きで、周辺のお魚の卵を食べつくしてしまうので、そこに住む他の生き物たちにとっても深刻な影響を与えているんです。

また、ブルーギル自身は清流からかなり水質の悪い場所まで生息することができたり、親が稚魚を守る習性があるので、なかなか数が減りにくいんです。

本来生息していた生き物たちに重大な影響を及ぼすことから、外来生物法で定める特定外来種に指定されていて、飼育、運搬、保管、譲渡、放流、輸入などが原則禁止されていますので、取り扱いには十分ご注意くださいと思います。

違反の内容によっては、非常に重い罰則が課せられることもあるんだそうですよ。

坂本 今日はちょっと重たい話も聞かせていただきました。

久留米市の環境部は、この外来種や生態系の問題について市民のみなさんに強くお願いをしていますので、ぜひ久留米市ホームページを見ていただければと思います。

ところで、養殖魚の候補だったブルーギルですが、スーパーとか食卓ではあまり見ないんですけど、結果として養殖魚にはならなかったということでしょうか？

川嶋 はい、そうですね。ブルーギル自体が食べられる大きさになるまでに時間がかかることと、調理に手間がかかるということで、流通には乗らなかったんだそうです。

でも、私も実際に食べたことがあるんですけど、丁寧に調理をすればブルーギルはとっても美味しかったですね。

生物学上はスズキ目サンフィッシュ科に分類されるお魚なんですけど、ちょうど大きさがフライパンくらいに大きくなることから、アメリカではパンフィッシュと呼ばれているそうです。

坂本 それを聞くと機会があればちょっと食べてみたい気がしますね。
くるめウスの川嶋さん、今回も面白いお話をありがとうございました。
防災施設くるめウスは、久留米市新合川の筑後川側にあります。
開館時間は、午前9時30分から午後5時までです。
毎週月曜日はお休みです。ぜひお出かけ下さい。
なお、新型コロナウイルス感染状況によっては休館することもあります。
次回は、今や幻となった天然うなぎをテーマにお届けします。